

●植物観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 1月9日(日) 13:00~14:30

2月6日(日) 13:00~14:30

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ 参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

●うさぎちゃんのお飾り作り

主催 ごみ対策課

日時 1月13日(木) 13:00~15:30

場所 三鷹市リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名(多数の場合は抽選) 無料

申込 往復はがきで1月5日(水)

必着でごみ対策課へ

問合せ ごみ対策課 内線 2534

●野鳥観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 1月15日(土) 9:00~12:00

2月12日(土) 9:00~12:00

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ 参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

●Tシャツからルームシューズ作り

主催 ごみ対策課

日時 1月19日(水) 12:30~15:30

場所 三鷹市リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名(多数の場合は抽選) 無料

申込 往復はがきで1月12日(水)

必着でごみ対策課へ

問合せ ごみ対策課 内線 2534

●第67回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会

テーマ「冬鳥探鳥会」

日時 1月23日(日) 9:30~12:00

事前に申込みが必要

参加費 300円

申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp

HP URL http://www.kansatsukai.net

編集後記

今年の冬は、野川の流量が多い。10月と11月は、昨年よりも多かった。湧水も多いようだ。このまま続いてほしいものです。

大沢の里のミニ水車小屋の生垣も、近くに住むボランティアによって、立派にリニューアルされました。11月に行われた花と緑のまち三鷹創造協会主催の生垣講習会の成果がでたようです。

(安達)

発行：みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境対策課

電話 0422-45-1151 内線 2523・2524

E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

新年を迎えて

～ 水と土と緑と生き物を大切にするまちづくり ～

旧石器時代、野川ができた3万年前から野川の流域には人々が住みついたようです。人の数は多くなかったかも知れませんが、国分寺崖線の湧水の川・野川は人々の命を育ててきました。武蔵野台地に注いだ雨が、緑を育て、地下水となり、湧水となって、野川に注いでいました。

その水も、近年都市化とともに雨水の地下への浸透が少なくなっていて、地下水や湧水の減少の原因になっています。

野川も時には水枯れが発生します。雨水の有効な利用が必要とされています。だが、今でも、野川の河川敷では、140種以上の野草が見られます。野川は、自然の豊かな川辺の風景づくり・「多自然川づくり」の模範とならなければなりません。また、土は、その下に膨大な数の微生物を育てていて、そこには生き物の循環の輪ができています。

これからは、三鷹市の人口も減少してくると考えられます。今までは人口の増加とともに都市化が進んできましたが、これからは「逆都市化」を考慮したまち



野川公園内のくぬぎ橋から野川下流を見る

づくりが必要となります。

緑は、相続を機会に減少をするケースが多いようです。減少が続いている三鷹の緑を、積極的に増やすほどの意気込みで根本的に取り組むことが望まれます。

長期的には、コンクリートのまちづくりから、生物多様性を尊重した水と土と緑を大切にするまちづくりに向けた、行政の先導と市民の自立的な活動が欠かせないと感じています。三鷹でも「自然と共生する社会」を目指して、生物多様性基本戦略を検討することが求められます。(安達)

## 江戸むらさき復活の夢

紫色は、高貴な色として、古来大切にされてきました。その染料に、紫草（むらさき）の根が、用いられています。武蔵野では、江戸時代、多くの紫草が栽培され、その紫根を染料に用いて染めた江戸むらさきが、大変流行しました。

紫草はムラサキ科の3~5年の多年草で、初夏に花を咲かせます。でも、今は絶滅危惧種に指定され、花を見ることすらなかなかできない貴重なものとなっています。

この貴重な紫草を復活させようと、紫草の栽培や染色の研究に取り組んでいるグループがあります。このグループは平成15年に発足した「みたか紫草復活プロジェクト」です。現在約80名の会員がいます。会長の山縣哲治さんにお聞きしました。

きっかけは「三鷹ブランドを企画する会合で、紫草復活プロジェクト案が出てきた。三鷹には、紫燈籠、むらさき橋など紫草ゆかりの地名が残っている。紫草を材料に地元ブランド製品を作りたい。」

活動のスタートは「種を探すことから始まった。幸い京都の製薬会社から、種の提供を受けることができ、栽培の仕方も教わった。紫草は、環境の影響を受けやすく、発芽率は約10%、その後も虫などに弱く、3分の1ぐらいしか育たない。新川の農園に土地を借りて、毎月第2土曜日に活動をしている。約3000粒の種をまき、育てている。一昨年（平



三鷹で咲いた紫草の花



活動中のみたか紫草復活プロジェクトの人々

成20年)はよく育ったが、毎年同じようにはいかない。発芽の時期には毎日のように水遣りをするとか、きめ細かく手をかけないと駄目。染色は水に敏感である。昔は井の頭池の湧水を使って染めていた。今はその湧水はないが、江戸むらさきの色の再現には、昔と同じ井の頭池の湧水を使って染めない駄目。」

抱負としては、「紫草を自生させるのが最終の目的」だそうです。  
(連絡先: NPO法人みたか都市観光協会  
電話 0422-40-5525) (安達)

## リニューアルした野川の水車経営農家

「大沢の里水車経営農家」の「新車」と呼ばれる峯岸家の水車の整備工事が終わり、再び稼働を始めました。11月から一般公開されています。

昔は、野川の水が導かれ、水輪を回転させていましたが、今は、循環方式が採用され、地下のタンクに蓄えられた40トンの水が、ポンプアップされて、水輪を回転させています。その水が、直径約4.6m、幅約1mの水輪を回しています。水輪を回す水の流量は、約3m<sup>3</sup>/分程度です。このように水車を稼働させながら動態保存をしていきます。

約50名の市民ボランティアが、交代で常駐し、見所を解説してくれます。



大沢の里水車経営農家の新車の水輪

公開時間は、午前10時から午後4時まで、休館日は、毎週水曜日と年末年始(12/28~1/4)です。 (安達)

## 市役所の窓：わたしとプチ・エコ

いま巷では「エコ○○」という言葉があふれています。『地球にやさしい』をコンセプトに練り上げられているエコ活動。これだけいろんなところで耳にしているとさすがに意識をしてしまいます。じゃあ私が取り組んでるエコ活動、どんなものがあるかしら……?

エコバックの利用、物を大切に使う、省エネ、ダイエット(?)…等々。どうやら「エコ」=「節約」というイメージが強いみたいです。そう考えるとこのエコ活動、最近流行してきたわけではなく日本の文化として根付いているもののように

す。例えば、「おすそわけ」「腹八分」「もったいない」「いただきます」……これらの日本人の奥ゆかしさを感じさせる言葉達。まさしくエコ言葉です。『地球にやさしい』なんて大きなことはできないかもしれない。でも自分の中に眠っている大和魂を呼び起こしてみたらちょっとしたエコライフ、実現できそうな気がします。節約生活というとなんだかちょっと抵抗を感じてしまう自分。「エコライフ頑張ってます!」と言ってみたらなんだかカッコいいかも……。

子育て支援課 緒方未来